

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「知ってほしい、この名言」 教材名「知ってほしい、この名言」

2 単元の目標

情報同士を関係付け、出典と自分の考えを区別して整理することができる。 目的に合わせて材料を関係付け、紹介する言葉について伝えたいことを明確にすることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報同士を関係付け、出典と自分の考えを区別して整理している。 (〔知識及び技能〕(2)イ)	①「書くこと」において、目的に合わせて材料を関係付け、紹介する言葉について伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

紹介したい言葉と自分の経験・考えを関係付け、選んだ理由が伝わる文章を書く。出典の確認できない名言を本人の言葉と断定しない。 学習指導要領のB(1)アを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)イを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

学校図書館の本や一次資料で出典を確かめる。配布案には既存の言葉を転載せず、題名・著者・出典の記録欄と、選んだ理由・経験の欄を分けて用意する。 おおむね満足できる状況は、目的に合わせて材料を関係付け、紹介する言葉について伝えたいことを明確にしているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画(全2時間)

次	時	学習活動	評価規準(評価方法)
第1次	1	○紹介する目的と言葉の出典を確かめる。自分の経験との関係を図にする。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本 時）	○伝える理由に合う材料を選ぶ。引用と自分の考えを分けて紹介を書く。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

目的に合わせて材料を関係付け、紹介する言葉について伝えたいことを明確にすることができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「その言葉のどこが、自分の経験や考えと関係していますか」 【めあて】紹介したい言葉と自分の経験・考えを関係付け、選んだ理由が伝わる文章を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・有名だからではなく、自分の経験と合うところを知らせたい。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「その言葉のどこが、自分の経験や考えと関係していますか」 伝える理由に合う材料を選ぶ。引用と自分の考えを分けて紹介を書く。 出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・有名だからではなく、自分の経験と合うところを知らせたい。 ・紹介する言葉と自分の意見を分けたい。 ・だれの言葉か確かめる必要がある。	学校図書館の本や一次資料で出典を確かめる。配布案には既存の言葉を転載せず、題名・著者・出典の記録欄と、選んだ理由・経験の欄を分けて用意する。 想定するつまずき：ネット画像だけで発言者を決める、引用だけで自分の理由を書かない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 目的に合わせて材料を関係付け、紹介する言葉について伝えたいことを明確にしている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・だれの言葉か確かめる必要がある。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。 書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「その言葉のどこが、自分の経験や考えと関係していますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

